



山陽放送報道局放送ライブラリーセンター

センターにデジタル編集機入る

今月6日、技術局の協力で放送ライブラリーセンターに念願のDVCデジタル編集機が入りました。

編集台の再生機側にはこれまでβcamとU-maticがつながっていましたが、組換えによってDVCとβcamを再生側につなぎ、DVC同士の編集が可能になったものです。編集台ではDVCとβcamのABロール編集も可能です。

センターでは昨年春以来、フィルムやアナログテープをDVCテープにデジタルアップしていますが、デジタル編集が出来なかったため、利用者には元素材を手渡していました。しかし、テープの紛失が絶えず作業に支障が出ていました。

デジタル編集機の導入で緊急時以外元素材をセンターの外に出す事が少なくなり、よりスムーズな貸し出しが出来る様になります。

貸し出しは基本的に、センターと各部署の間でDVCのシャトルテープを使います。シャトルテープへのコピーはスタッフの空いた時間で行いますので、早めに申請してください。



センターに導入されたデジタル編集機

新U-maticデッキ4台戦列へ

ライブラリーセンターには現在デジタル化出来ないU-matic、いわゆる3/4テープがおよそ3000本あります。そのテープの再生機はこれまで3台ありましたが、うち1台が全く動かなくなり、1台も音声は正常に出なくなりました。いずれもヘッドやメカが耐用限度を大幅に超えたための故障です。

このため、中古市場に回っている再生機を探していたところ、何とか4台を見つけて確保し、将来に向けて安定したデジタル化作業ができる見通しが付きました。

各デッキとも内部がきれいで、しばらくは順調に動いてくれると思いますが、メーカーがメンテナンスを放棄している現状では、新しく購入した再生機がちゃんと動いている間に、残るテープのデジタル化を急ぎたく、場合によっては、報道部のラップトップエディターを、空いている時にお借りする事になるかもしれません。ご了承ください。



右側の色白が新しく入ったデッキ

右側の色白が新しく入ったデッキ

テープデータの記入をよろしく

テープ整理は箱に書かれているデータが頼りです。かなりの方はきちんと箱書きされていますが、報道部からのテープにはデータ不備のものが少なくありません。

また、制作部からのテープも「年」が書かれていないものが若干あります。制作素材に関しては、来年度検索システムを立ち上げる予定ですのでよろしくお願いします。

センター情報誌「アーカイブズ」創刊

放送ライブラリーセンターは、昨年4月に設置されました。山陽放送が半世紀にわたって蓄積してきた情報を整理分類し、エリアの開かれたアーカイブとして活用するためのものですが、活動そのものがまだ十分理解されていません。そこで私たちの活動を知って頂く為に月刊の情報誌「アーカイブズ」を発刊することにしました。ご一読ください。

次回からは、著作権まめ知識と題したミニシリーズも連載したいと考えています。

創刊号だけはカラー印刷しました。次回からはモノクロです。あしからず。